

令和3年度第3回経営会議 会議概要

1 開催日時

令和4年3月24日（木） 14:00～16:25

2 場 所

本部棟3階 大会議室

3 出席者（委員12名中10名出席）

学外委員：平賀委員、谷村委員、木村委員、菅原委員、菅委員

（欠席：山本委員、床次委員）

学内委員：千葉委員、鈴木委員、宮野委員、石堂委員、狩野委員

その他、各本部長、各学部長、各室長及び関係職員が出席。

4 審議事項及び審議結果

(1) 令和4年度計画（案）及び予算（案）について

当該計画案について、及び予算案について、それぞれ狩野委員、宮野委員から説明し、質疑を経て、原案のとおり承認された。

(2) 第四期中期目標に係る岩手県立大学意見（中間案）について

当該中間案について、狩野委員から説明し、質疑を経て、原案のとおり承認された。

(3) 組織規則の一部改正について

組織規則の一部改正について、概要を宮野委員より、教学IRセンターの設置について、石堂委員から説明し、質疑を経て、原案のとおり承認された。

5 その他

(1) 令和3年度における新型コロナウイルス対策の状況等について

本学の新型コロナウイルス対策について、事務局から資料に基づき報告した。

(2) Dream Festival With U（イルミネーション点灯式等）について

当該催事に係る活動について、事務局から資料に基づき報告した。

(3) その他

本学関連新聞記事の紹介、配布を行った。

また、令和4年4月入学者（合格者）の状況について報告した。

加えて、令和3年度就職内定状況について報告した。

6 情報提供

時間の都合上割愛し、次回会議にて提供することとした。

7 意見・質問に対する回答等

学外委員の意見・質問等に対する学内委員及び事務局等の回答等は、次のとおり。

- 目的積立金の取崩しについて（審議事項（1）関連）
目的積立金の取崩し及び積立について質問があり、黒字決算の場合に、余剰金の処分先として目的積立金を充てており、取崩したままではなく、一定額積み上げしている旨回答した。
- 内部質保証システムによる進行管理について（審議事項（1）関連）
達成度のメルクマールとして数値目標を設定とあるが、達成度はどうなっているのか質問があり、県の評価委員会で審議され、一定の成果を上げていると認められている旨回答した。
また、その提示した数値目標等についても本会議で提示いただけると、もっとはつきり分かるのではとの意見を頂戴した。
- 性の多様性のLGBTに関する理解促進、経済事業の展開について（審議事項（1）関連）
協議検討をして進めるとあるが、令和4年度にどの程度進める予定なのかとの質問があり、ロードマップは出来ており、年度の前半でガイドラインの骨格や素案を策定し、後半に全学での調整を行う旨回答した。
- 防災復興支援センターについて（審議事項（1）関連）
令和4年度はどこまで計画を立てているのか質問があり、県の復興防災部とプロジェクト研究のような内容で調整を進めており、参画いただける先生方とマッチングしつつ、プロジェクトの構築を進めていきたい旨回答した。
- 学生の主体的、積極的な国際交流活動の促進について（審議事項（1）関連）
コロナ禍ではあるが、令和4年度はどのような見込みで計画を立てているのか質問があり、昨年はオーストリアへ学生を送り出し、今後少しずつ活発になってくるのではと考えている旨回答した。また、現在は海外研修を行う研修先について目星をつけているところがあり、現地視察を行ったうえで海外研修が出来るよう計画してい

る旨回答した。

- 岩手県インターンシップについて（審議事項（1）関連）

県内企業が実施するインターンシップについて、どのように進めていかれるのか質問があり、昨年度は企業向けにオンラインでのインターンシップの進め方についてセミナーを開催し、今後コロナ禍でなくてもインターンシップや面接等がオンラインになる見込みであるため、他社事例の紹介も含め、オンラインで採用活動が出来るよう、企業向けに様々な情報を紹介したい旨回答した。

- 計画達成のためのアプローチについて（審議事項（1）関連）

計画の進め方について、計画書を見ると抽象的に感じるが、どのようにアプローチしているのか質問があり、県で作成した中期目標を達成するために、6年間の中期計画を策定、さらに毎年度の計画を立てていくという作りになっており、目標の関係は、6年間の中期計画の中で、4年目6年目の中で指標を立てて、成果を測りながら計画を進めていく旨回答した。

また、これまでのご指摘のとおり、計画等に対して抽象度が高いという話をいただいているため、来年度から本格的にスタートする計画策定の中で、進めて考えていきたい旨回答した。

なお、参考資料として、各学部の主な取組みについてまとめ、チェックしている資料を最後に添付している旨補足説明した。

- 学生をアルバイト等として活用することについて（審議事項（1）関連）

学生の貧困が話題となる中で、学生をアルバイトとして活用することで、学生の実学や本学のPRにもなるのではないかとこの意見があり、現在学内でアルバイトを実施している旨回答した。

また、学外に対してPRするためには、学外で学生が活動することが必要だという側面はあるが、本学の学生の相当数は既にアルバイトをしており、各研究先生方との活動を行う等、外での機会を作っても中々来れない状況がある旨説明した。

- 早期からの公務員ガイダンス及び公務員対策の成果について（審議事項（1）関連）

これらの成果について質問があり、二次試験やグループディスカッションを強化するための直前対策を県のOBの方にご協力いただき、公務員試験の対策を所管している先生からも、かなり効果があったという評価を頂いている旨回答した。また、岩手県庁のI種試験について、今回6名の合格者が出ており、過去最高の実績である旨回答した。

加えて、今後も低学年向けの講座研修等も行い、低学年に対する取組みを強化して

いきたい旨説明した。

- 本学入学志望者を集める為の活動の予算について（審議事項（1）関連）

学生を集めるための活動については予算を割り振っているのかとの質問があり、メディアミックスによる効果的な広報活動の展開や、来年度対面とWebのハイブリット形式で実施するオープンキャンパスを行う計画である旨回答した。
- 男女共同参画の取り組みについて（審議事項（2）関連）

男女共同参画に関する目標について、第三期中期目標では見出しに掲載されているが、第四期中期目標案では大学運営の改善に関する目標の中に組み込まれており、トーンダウンしていないかとの質問がされた。

これに対し、目標策定について県との話の中で、計画の柱の数が多いとの話を頂いていることからこのような形にしているものの、決して軽視している訳ではなく、今後策定する計画の中身の方で頑張りたいと考えている旨回答した。

また、女性の上位職登用について、県立大学は女子学生の比率が多いこともあり、学生からロールモデルとして見られることから、ぜひ積極的に取り組んでいただきたいとの意見を頂戴した。
- 社会福祉学部における講義理解力試験の導入について（審議事項（1）関連）

導入の背景として、学生が講義を理解できないということなのか、講義の内容が難しいということなのか分からないので教えていただきたい旨質問がされた。

これに対し、決して学生の理解力について軽視している訳ではなく、学生が自分の頭で考えて自分の言葉で表現するというような創造的な過程も大学の教育には求められていると考えており、入ってくる学生にも期待していることから、メッセージを与えるという意味でも入試として行う旨説明した。
- 岩手創造人材の育成について（審議事項（2）関連）

第四期では、岩手創造人材というイメージではなく、国際的にもっと活躍する人材を育成するイメージなのかとの質問があり、第三期に目標として掲げた岩手創造人材の育成については、岩手創造教育プログラムという副専攻を受講し、称号を取った学生を輩出していることから、一度、目標は達成されていると考えていること。加えて、現在、もう一つの国際教育プログラムが現在進行形で走っていることから、これをさらに継続する必要があるとのことで、第四期の目標として動く形になったと思いう旨回答した。

- 中期計画の項目数について（審議事項（2）関連）
中期計画数について、第三期の方が45項目あったことから、項目数を絞るのは良いことだと思う旨話があり、県の評価委員との議論の中でも項目数の多さについては指摘があり、今回そこも配慮しながら柱建てを考えている旨説明した。
- 大学での訴訟発生状況について（審議事項（3）関連）
紛争処理が必要なものが発生しているのか質問があり、現在訴訟案件は抱えていない旨回答した。

以上